

平成28年度病害虫発生予察予報第2号（5月）

平成28年5月10日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生面積（地域名）
水稻	イネミズゾウムシ	平年並（県下全域）
かんきつ類	黒点病 果樹カメムシ類	<u>やや多（県下全域）</u> 平年並（県下全域）
抑制、促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	平年並（中西、西）、やや少（中央） <u>やや多（中西、西）、やや少（中央）</u> <u>やや多（中央、西）、やや少（中西）</u> <u>多（中央）、やや多（中西、西）</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ	<u>多（中央）、やや多（東）、やや少（西）</u> <u>多（県下全域）</u> <u>やや多（県下全域）</u> <u>多（中央）、やや多（東、西）</u> やや少（県下全域）
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	<u>やや多（中央）、平年並（中西）、やや少（東）</u> <u>多（県下全域）</u> <u>多（中央、中西）、やや少（東）</u> <u>多（中央、中西）、やや多（東）</u> <u>やや多（中西）、平年並（東）、やや少（中央）</u> 平年並（中央）、やや少（東、中西）
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多（中央）</u> <u>多（中央）</u> <u>多（中央）</u> 平年並（中央） <u>多（中央）</u>

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方气象台 5 月 5 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 5 月 7 日から 6 月 6 日

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は高い確率 60% です。降水量は平年並または多い確率ともに 40% です。日照時間は平年並または少ない確率ともに 40% です。

週別の気温は 1 週目は高い確率 60% です。2 週目は平年並または高い確率ともに 40% です。3～4 週目は平年並または高い確率ともに 40% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	30	60
		降水量	20	40	40
		日照時間	40	40	20

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	10	30	60
2 週目		20	40	40
3～4 週目		20	40	40

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：5 月 7 日（土）～6 月 6 日（日）

1 週目：5 月 7 日（土）～5 月 13 日（金）

2 週目：5 月 14 日（土）～5 月 20 日（金）

3～4 週目：5 月 21 日（土）～6 月 3 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻の病虫害

1) イネミズゾウムシ

発生量（発生面積/発生程度）

県下全域（平年並/平年並）

根 拠

(1) 防除適期決定圃における調査では 4 月末から食害が見られている。

(2) 向こう 1 か月の気象予報では気温が高めと予想されているため、活動が活発になると考えられる。

対 策

(1) 箱処理剤による防除を行う。

2 かんきつ類の病虫害

1) 黒点病

発生量（発生面積/発生程度）

県下全域（やや多/平年並）

根 拠

- (1)前作の巡回調査では、ほぼ全てのほ場で発生が見られていた。
- (2)5月の降水量は平年並～やや多めと予想されている。

対 策

- (1)感染は、枯れ枝上に形成された胞子が降雨により分散することにより起こるので、落弁期以降、200～250mmの降水量を目処に薬剤防除を行う。

2) カメムシ類

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

- (1)県下4カ所（安芸市、香美市、須崎市、四万十市）で実施しているフェロモントラップによる調査では、安芸市以外で誘殺が見られているが、誘殺数は平年より少なめで推移している。

対 策

- (1)幼果を加害されると落果するため、ほ場内での発生に注意し、飛来を確認したら薬剤防除を行う。

3 抑制、促成キュウリの病害虫

1) ベと病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（やや少/低）、中西部（平年並/平年並）、西部（平年並/低）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部はやや少なめ、中西部、西部は平年並であった。発生程度は中央部、西部は低め、中西部は平年並であった。
- (2)本病は20℃前後、多湿条件で多発するが、5月の気温は高めと予想されているため、発生面積の拡大、病勢の進展もないと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（やや少/やや低）、中西部（やや多/やや低）、西部（やや多/やや高）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部は少なめ、中西部、西部は平年並であった。発病程度は中央部、中西部は低め、西部は平年並であった。
- (2)発生が目立つ地域は見られていないが、5月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。また、パルミノはカブリダニ類

に対する影響が強いので注意する。

3) 黄化えそ病

発生量 (発生面積/発生程度)

中央部 (やや多/高)、中西部 (やや少/やや低)、西部 (やや多/やや高)

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部、西部は平年並、中西部は少なめであった。発生程度は中央部はやや高め、中西部は低め、西部は平年並であった。
- (2) 本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになっているため、既発ほ場では発病株数が急激に増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行うとともに、作の終了時には保毒虫の分散を防ぐため、蒸し込み等を徹底する。

4) ミナミキイロアザミウマ

発生量 (発生面積/発生程度)

中央部 (多/高)、中西部 (やや多/やや低)、西部 (やや多/高)

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部で多め、中西部、西部では平年並であった。発生程度は中央部はやや高め、中西部は低め、西部は高めであった。
- (2) 気温の高い時期を迎え、既発ほ場では密度が急激に上昇すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。天敵導入ほ場のうち、スワルスキーカブリダニのみを導入しているほ場では、ミナミキイロアザミウマを防除することは困難なので、薬剤防除を併用する (ベネビアODであればスワルスキーカブリダニ、タバコカスミカメへの影響はほとんどない)。

4 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

発生量 (発生面積/発生程度)

東部 (やや多/高)、中央部 (多/高)、西部 (やや少/やや低)

根 拠

- (1) 巡回調査では東部、中央部で発生が見られた。発生面積は東部は平年並、中央部は多めであった。発生程度は東部、中央部とも高めであった。
- (2) 5月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（多/高）、中央部（多/高）、西部（多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、中央部でやや多め、西部は多めであった。発病程度はいずれの地域も高めであった。
- (2) 5月の気温は高め、降水量も平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) すすかび病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや多/やや高）、中央部（やや多/高）、西部（やや多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年並であった。発生程度は東部は平年並、中央部はやや高め、西部は高めであった。
- (2) 5月の気温は高め、降水量も平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや多/平年並）、中央部（多/平年並）、西部（やや多/やや低）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、西部で平年並、中央部はやや多めであった。発生程度は東部、中央部はやや低め、西部は低めであった。
- (2) 5月の気温は高めと予想されている。天敵の密度が低いほ場では、本虫の密度が急激に上昇すると考えられるので注意する。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや少/やや低）、中央部（やや少/やや低）、西部（やや少/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では中央部、西部で発生が見られた。発生面積は中央部、西部とも少なめであった。発生程度は中央部は低め、西部は高めであった。
- (2) 5月の気温は高めと予想されている。天敵の密度が低いほ場では、本虫の密度が急激に上昇すると考えられるので注意する。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや少/やや低）、中央部（やや多/高）、中西部（平年並/やや低）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部は少なめ、中央部は平年並、中西部はやや少なめであった。発生程度は東部、中西部は低め、中央部はやや高めであり、一部のほ場では落葉も見られた。
- (2)4月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（多/高）、中央部（多/高）、中西部（多/高）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、中央部はやや多め、中西部は多めであった。発生程度はいずれの地域でも高めであったが、実害が見られるほ場はなかった。
- (2)5月の気温は高め、降水量は平年並～多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや少/やや低）、中央部（多/やや低）、中西部（多/やや低）

根 拠

- (1)巡回調査では中央部、中西部で発生が見られ。発生面積は中央部はやや多め、中西部は多めであったが、発生程度はいずれの地域も低めであった。
- (2)5月の気温は高め、降水量は平年並～多めと本病の発生に好適な条件になると予想されている。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや多/やや高）、中央部（多/やや高）、中西部（多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部は平年並、中央部はやや多め、中西部は多めであった。発生程度は東部、中央部は平年並、中西部は高めであった。
- (2) 5月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では密度が急激に上昇すると考えられるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は、上位葉を中心に防除を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（平年並/やや低）、中央部（やや少/やや低）、中西部（やや多/やや高）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部でやや少なめ、中央部は少なめ、中西部は平年並であった。発生程度は東部、中央部は低め、中西部は平年並であった。
- (2) 5月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では密度が急激に上昇すると考えられるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) ヒラズハナアザミウマ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや少/やや低）、中央部（平年並/やや多）、中西部（やや少/やや低）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。東部、中西部は発生面積は少なめ、中央部は平年並であった。発生程度は東部、中西部は低め、中央部は平年並であった。
- (2) 5月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では密度が急激に上昇すると考えられるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/やや高）

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ多めの発生であったが、発病程度は平年並であった。下

葉中心の発生であり実害は見られなかった。

- (2) 5月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/平年並）

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ多めの発生であったが、発生程度はやや低めであった。下葉中心の発生であり、実害は見られなかった。
(2) 5月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) うどんこ病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ多めの発生であり、一部では上位葉まで発病が進展しているほ場も見られた。
(2) 5月の気温は高めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
(2) トマトに発生するうどんこ病は内部寄生性のもの（葉裏に発生する）と外部寄生性のもの（葉表に発生する）2種類がある。外部寄生性のものは病勢の進展も早く、被害も激しいので早期防除を徹底する。

4) 黄化葉巻病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（平年並/やや低）

根 拠

- (1) 巡回調査では一部のほ場でのみの発生であった。
(2) 5月の気温は高めと予想されている。本病の媒介虫であるタバココナジラミの発生が見られるほ場では、害虫密度の増加に併せ、罹病株も増加すると考えられるので注意する。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/高）

根拠

- (1)発生が見られたほ場は一部に限られているが、平年に比べ発生面積は多く、発生程度も高めであった。
- (2)気温の上昇に伴い、既発ほ場では密度が急激に増加すると考えられるので注意する。

対策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

こうち農業ネットサービス※

- ・携帯電話を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（iモード）

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

- ①病害虫発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります